

❖ 科目名 Course Title			
人文科学入門Ⅱ (倫理学)			
❖ 担当教員 Instructor			
後藤 嘉也			
❖ 開講学期 Semester	後期	❖ 対象学年 Year	1～2
❖ 履修可能人数 Capacity	10	❖ 単位数 Number of Credits	2
❖ 授業形態 Type of Class	講義		

❖ キーワード Key Words			
倫理的価値, 絶対的, 相対的, 倫理的価値の崩落, 倫理的価値の亡霊, 存在することの意味			
❖ 授業の目的 Course Objectives			
倫理的価値の問題に関心を持ち, 倫理的価値と存在することの意味をめぐる問題について理解し, 説明できるようになること, また, この問題について自分で考え, 的確に表現できるようになることを目的とします。			
❖ 授業概要 Course Description			
1回の基本的な授業構成は, ①教員からの講義, ②小テスト, となっています。また, 学生(他大学学生も含む)がグループで課題に取り組み, 全体に対して発表し, 全員で討論する機会を設けます。			
❖ 到達目標 Course Goals			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理的価値の問題に関心をもつ。</li> <li>2. 倫理的価値と存在することの意味をめぐる問題について理解し, 説明できる。</li> <li>3. 倫理的価値と存在することの意味をめぐる問題について, 自分で考えることができる。</li> <li>4. 倫理的価値と存在することの意味をめぐる問題について, 自分の考えを的確に表現できる。</li> </ol>			
❖ 授業計画 Course Schedule			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに: 倫理学とは何か, および授業の概要</li> <li>2. 倫理的価値は絶対的か相対的か (1) 一 道徳ないし倫理の変動</li> <li>3. 倫理的価値は絶対的か相対的か (2) 一 絶対的, 相対的という語の意味</li> <li>4. 倫理的価値は絶対的か相対的か (3) 一 カリクレス対プラトン</li> <li>5. 倫理的価値の崩落 (1) 一 ささまざまな事件</li> <li>6. 倫理的価値の崩落 (2) 一 『罪と罰の彼岸』</li> <li>7. 倫理的価値の崩落 (3) 一 すべては許されるか</li> <li>8. 倫理的価値の崩落 (4) 一 被害者と加害者</li> <li>9. 倫理的価値の亡霊が現れる一 (1) スタヴローギンの告白と死</li> <li>10. 倫理的価値の亡霊が現れる一 (2) 忘却の穴と無言の声</li> <li>11. 倫理的価値の亡霊が現れる一 (3) まぬけなお人よし, または最もよき人々</li> <li>12. 倫理的価値とその外側一 (1) 倫理的価値の重要性</li> <li>13. 倫理的価値とその外側一 (2) 倫理的価値の外側</li> <li>14. 倫理的価値とその外側一 (3) 存在することの根拠なき肯定</li> <li>15. おわりに: 倫理的価値と存在することの意味</li> </ol>			
❖ 成績評価 Grading System			
<p>到達目標は4つあり, すべての項目について一定の成果を求めます。</p> <p>(1) 毎回の授業で, 授業開始時に小テスト(論述式)の問題を提示し, 終了前にその問題について解答します(ノート等を見てよい)。このなかで, 4項目について評価します。</p> <p>(2) 学期末にレポートを提出します。課題は最終週に伝えます。</p> <p>レポートでは, 正しい理解に基づいて(項目2), しっかり考え(項目3), 的確に表現している(項目4)かどうかを見ます。したがって, コピー&amp;ペーストのたぐいは厳禁です。</p> <p>(1)が50%, (2)が50%ですが, どちらか一方でも非常に悪い場合は単位を認めません。</p>			
❖ テキスト Textbooks			
テキストは使用せず, 必要に応じて資料を配付します。			

<b>❖参考書Reading List</b>
授業中に適宜紹介します。
<b>❖準備学習Homework</b>
毎回の授業終了時に、次回に向けての準備学習について連絡します。
<b>❖オフィスアワーOffice Hour</b>
月曜日18:00～19:30(会議・出張等で不在する場合がありますため、アポイントメントをとるほうが無難です。)その他、希望に応じて随時対応します。 他大学の学生の場合、電話による質問を受け付けます(電話番号は初回の授業で伝えます)。
<b>❖連絡先 (E-mail) E-mail</b>
<a href="mailto:goto.yoshiya@h.hokkyodai.ac.jp">goto.yoshiya@h.hokkyodai.ac.jp</a>
<b>❖質問・相談への対応方法Contact Information</b>
質問等がある場合は、事前にメールを送り、担当教員の返信を待って、教員に電話をかけてください(メール返信のみで対応が終わる場合もあります)。メールを送る際は、送信者の氏名と所属大学を忘れずに記入してください。
<b>❖履修上の注意Notes</b>
授業計画等は、講義の進行、学生の理解度・要望などによって変更することがあります。
<b>❖備考Other Information</b>
双方向遠隔授業システムにより受講する他大学の学生の皆さん、大学間交流による学び合いに積極的に参加してください。

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外の人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。